

都市景観賞選考総評

選考委員会委員長 志賀 咲穂



第8回の姫路市都市景観賞選考委員会を代表いたしまして一言、選考の経過と総評及びそれぞれの作品に対する講評を申し上げたいと思います。

3年ごとに開催されてまいりました姫路市都市景観賞、昭和63年から始まって、20年を超えて8回を数えます。前身の姫路市建築文化賞、これは昭和60年にありましたが、これを含めまして、これまでに表彰された建造物は34件に上ります。

これらの建築物等が姫路市の美しい景観のシンボルとして親しまれまして、市民や事業者の景観形成への関心を高めてきたということとは言ってもありません。

今回は、経済情勢がやや悪いということからか、例年より少なめの応募ではありましたが、建築部門51点、広告物部門2点、町並み部門1点の計54点の応募・推薦がございました。選考委員会ではこれらの応募作品の中から、写真による予備選考と現地調査を行いまして、最終的に委員の総意によって都市景観賞2点、特別賞3点を選考いたしました。

まず、都市景観賞に選ばれたハーベスト医療福祉専門学校ですが、カラフルで清新な外壁デザインとともに、1階部分の建物を後退させて整備した歩道と、それに面した開放感

のある窓など、JRの高架沿いという非常に厳しい環境にあって、良質な校舎空間の創出をされたことを高く評価したものです。

同じく都市景観賞に選ばれました美樹ビルは、大手前通りと国道線の角地で姫路城とも相対した位置にありまして、翼を模した5枚の壁が市街地のビル群に一定の規律を与え、大手前通りに面したガス灯やオブジェなど、解放ある空間も好印象として評価されました。

次に特別賞ですが、従来は努力賞として選考してきたものですが、建築物単体という面から一步踏み込んで、周辺環境との調和や町並み景観形成という多面的な評価を加えまして、選考委員会で特に景観によい影響を与えている作品を表彰するものです。

特別賞になりました、あずきミュージアムは前回に努力賞を受賞した御座候工場ショップと同一敷地にありまして、レンガ積みとコンクリート打ちっ放しの建物を囲む照葉樹林の森が、殺風景になりがちな周辺事業所地域の景観にいい影響を与えているというふうに評価いたしました。

また、読売DCビルも同じような事業所地域にありまして、整備中の幹線道路沿道の事務所ビルですが、景観形成の先導となることが期待できるというふうに考えました。

さらに、あぼしまち交流館は揖保川に面した周辺に歴史的な神社や古民家の町並みが残る地区にありまして、廻船問屋風の大型町屋がイメージされ周辺環境と大変調和しているというふうに思われます。

以上のほか、ガラス張りの景観と明るく開放的なロビーを演出した播州信用金庫西支店、あるいは緑の木陰を設けた中庭のある、単調になりがちな壁面を分節化した太陽生命姫路ビルなど建築デザインや環境に配慮された、

優れた作品があったことも今回の特徴だった
と思われます。

一方、広告物部門と町並み部門での受賞が
残念ながらありませんでした。特に、町並み
部門といますのは、樹木や花の演出や町並
みを維持管理する住民主体の組織づくりなど、
住民や事業者の努力が一層積み重ねられるこ
とを期待したいと選考委員会の中で議論があ
りました。

これまでの部門別の表彰スタイルについて
も再検討して、総合的な評価に基づいた選考
をしてはどうかというふうな意見も出されま
して、次回以降の検討課題として考えておる
ところであります。

最後に、世界文化遺産姫路城を擁する姫路
市には、それにふさわしい景観形成を推進す
ることが求められています。この姫路市都市
景観賞が市民や事業者の皆様がいい刺激とな
り、今後一層愛着、親しみ、誇りを感じる美
しい町の実現に寄与していくことを願ってや
みません。

どうもありがとうございます。